

令和元年度 第10回総合診療専門医検討委員会（通算17回）

議事録

開催日時 令和2年1月9日（金）18時00分～19時30分

開催場所 東京国際フォーラム G510

出席者 委員長 羽鳥 裕
副委員長 竹村 洋典
委員 有岡 宏子 有賀 徹 生坂 政臣 石松 伸一
井上 健一郎 金丸 吉昌 草場 鉄周 清水 俊明
菅原 正弘 園田 幸生 野村 英樹 山田 隆司
横山 彰仁 渡辺 毅
オブザーバー 松原 謙二
内藤 俊夫（田妻委員代理/日本病院総合診療医学会）
高橋 洋光（日本病院会）

Web出席者 委員 太田 光泰 大平 善之 田妻 進

欠席者 委員 浅井 文和 清水 貴子 北村 聖 前野 哲博
邊見 公雄

議 題

I 協議事項

1. ハラスメント及び差別 文案（資料1-3）

専門医機構の対応方針に沿って作成されたものであることが説明され、原案通り承認され、運営委員会・理事会に諮ることとなった。

2. カリキュラム制について（資料1-2）

以前、本委員会で承認された内容で、専門医機構からのフォーマットに沿って記載したこと、時間に応じた単位制にしたことが報告された。フルタイムの定義に正規職員であることが含まれていることについて、実態を反映していないとの意見が出され、非正規雇用であっても週32時間以上勤務していればフルタイムとするよう修正することになった。それ以外は、原案の通り承認され、専門研修プログラム委員会、運営委員会および理事会に諮ることとなった。

3. 専攻医研修案内 文案（資料2-1）

- ・2020年度に研修を開始する専攻医向けの案内であること、専門医試験の項目を加えることが報告された。
- ・サブスペシャリティについての具体的な記載があることについて、サブスペシャリティに関して具体的なことが決定していない現時点で記載するのは避けるべきとの意見が出された。これに対し、総合診療はキャリアプランが見えないことが指摘されているので、将来の検討事項として記載されているという意見が出された。
- ・へき地研修に関わる記載について、今後、変更される可能性があり「現在検討中」と明記することが作業部会にて決定したことが報告された。
- ・医療資源の乏しい地域の具体的な地域名の記載については、さらに検討することになった。また、現在実施されている2019年度プログラムで採用された基準に沿って記載すべきではないか、との意見があった。
- ・小児科に関する記載の文言の一部を変更して欲しいとの要望が出され、修正することになった。

- ・専門医試験についても現在、わかっている情報は掲載すべきではないかとの意見があり、了承された。
- ・確定していることと検討中であることを区別して記載した上で、運営委員会、理事会へ提出することになった。

4. FAQについて（作業部会対応・委員会対応・理事会対応）

- ・2019年未までに200以上の質問が機構事務局へ寄せられていること。
 - ・ダブルボード、専門医試験、へき地要件、カリキュラム制などについては、FAQではなく新しい情報として区別して出すこと。
 - ・J-OSLERについては、図や写真を入れた説明を作成する。内科のJ-OSLERとはIDが別であることも周知すること。
 - ・新しい情報が出た場合は、統括責任者ML、専攻医MLに新しい情報が来たことを周知するメールを流すこと。
- 以上について報告され、承認された。

5. その他

（1）現在、機構HPで公開されている紙バージョンの研修手帳について

当委員会での決定されたものと異なるので、修正してほしいとの意見があった。具体的には、

- ・タイプAの説明文を当委員会で決定したものに修正して欲しい。
- ・タイプAの領域について、下位項目を示して欲しい。
- ・基準準拠型、基準創出型という名称で合意したはずであり、そのように修正して欲しい。
- ・タイプAの書式が当委員会で合意されたものと異なるため、合意されたものへ差し替えて欲しい。

以上について、修正することとなった。

II 報告事項

1. 専攻医応募状況

事務局より、1次募集 応募191名（うち188名採用、3名は不採用）、2次募集 応募22名であることが報告された。

2. 1月11日特任指導医講習会、1月12日プログラム統括責任者講習会について

1月11日（土）特任指導医：参加者120名程度。講師は、竹村委員、野村委員、清水貴子委員が担当。これまでの講習会に準じて資料を準備。

1月12日（日）プログラム統括責任者講習会：参加者40名程度。講師は、羽鳥委員長、竹村委員、野村委員、太田委員が担当。内科学会 西川医師より総合診療版J-OSLERについての説明をいただく。以上について報告された。

3. 作業部会報告（協議以外）

（1）プログラム辞退届について（資料1-4）

届出の通り承認された。

（2）救急科研修がブロック研修できない場合の申請（資料1-5）

以前、当委員会で承認された細則に則った内容の申請であることから、承認する旨、返信したことが報告された。

（3）研修開始時期の遅れについて

2019年4月に研修を開始する予定であった専攻医が、諸事情により2020年4月からの研修開始となることについて、再登録などの事務手続きは行わず、1年遅れての研修開始としていただくよう回答したこと、その際、2020年4月の研修開始後にすみやかに研修開始届を提出するよう申し添えたことが報告された。

4. 研修手帳Web版関連進捗状況（JCS）

2020年4月1日からの本格稼働に向けて順調に作業が進んでいることが報告された。

5. 機構ホームページ

総合診療版J-OSLERについての説明の掲載、FAQの充実を図ることが確認された。

6. 12月の委員会議事録

一部の文言を追加・修正することで承認された。

7. 機構内の情報についての守秘義務誓約書について

以前、情報漏洩が確認されており、正式な手続きを行って作成することが報告された。

8. その他

(1) 総合診療から内科へ領域異動した場合について

・領域を異動した場合は、最初から研修をやり直すことになっており、現時点では、内科学会としては、総合診療で **J-OSLER** を用いて内科研修を 12 ヶ月行った場合でも、研修内容が異なるため、最初から研修をやり直すことになっている。ダブルボードで使える可能性は残っている。これに対して、専攻医の立場から考えると研修歴として認めてもよいのではないかという意見が出された。

(2) 総合診療版 **J-OSLER** の登録症例数が少ないことについて

登録を促す周知を行うことが確認された。

(3) 総合診療領域の研修手帳 Web システムについて、委託先の JCS から小児科領域への説明を早急に行うことが確認された。

(4) 救急科とのダブルボードについて検討するため、総合診療側の担当者を決めて頂きたいとの要望が出され、担当者を決めることになった。

(5) 総合診療のサブスペシャリティとして、病院総合診療専門医、感染症専門医が、それぞれの担当学会内で検討が進んでいることが報告された。

(6) 義務年限のある医科大学、地域卒の学生の問題は、カリキュラム制だけではなく、さらなる内容の検討をお願いしたいとの要望が出された。

(7) 作業部会での作業進行が早く、非常に良いという意見が出された。